

# 実践例「学校・学級経営の深化・充実」

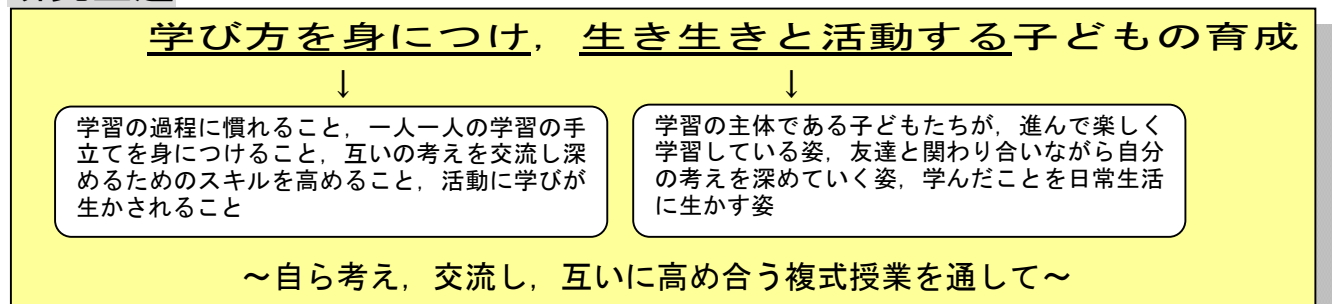
## 「課題4 近隣校や地域と連携した実践的な共同研究の推進」

### I. 学校名 釧路町立昆布森小学校

### II. 研究の概要 (研究の全体構造図から)

子どものよさ ・自分らしさ(個性)を発揮しながら学習する子が多くなってきた。	学校教育目標 ・豊かな心とたくましく生きる力を育みたい。	社会的な要請 ・豊かな心を持ち、主体的に学ぶ子どもを育むことが求められている。	教師の願い ・授業を通して、主体的に学ぶ子、心豊かな子を育てたい。
---	---------------------------------	--	--------------------------------------

### 研究主題



### めざす子ども像

学習の過程を繰り返し経験することで、一人一人が学習の方法を身につける。さらに学んだことが次の学びにつながっていくことを実感し、次の学びにつなげようとする姿

### めざす(205日間継続できる)授業

子どもたちが主体となって学習を進め、教師は必要な場面で指導(間接指導に入る前の直接指導)や支援(一人学習における同時間接指導)を大切にし、すべての子どもたちが学びを深めることのできる授業

### 研究仮説

学習の過程を明確にした授業展開を繰り返し、自分の考えを交流したり発表するなど、言語活動を工夫していけば、見通しをもって、自ら学び、自分の考えをさらに高めようとする子どもが育つであろう。

### 研究の視点

<b>視点1</b> 【学習内容の焦点化と課題設定の工夫】 ・学習内容の焦点化を図り、単元・単位時間の指導事項を明確にする。 ・子どもたちが学ぶ意欲や必要感をもって学ぶことのできる課題を設定する。 【見通しをもち、学びの自立を目指した授業】 ・学習の過程を明確にし、繰り返すことで子どもたちが見通しをもち、主体的に学習を進められるようにする。	<b>視点2</b> 【友達と学び合うことのできる授業の工夫】 ・目的や視点を明確にした交流をし、多様な考えと触れ合う中で、子どもたちが学びを高めたり、深めたりしていけるよう工夫をする。 【学びのつながりを意識した授業】 ・学んだことを活用していく授業を展開する。
--	--

### これまでの成果と課題 (○成果・●課題)

<b>視点1</b> ○ 1単位時間の学習の過程が明確になり、見通しをもち安心して学ぶことができた。 ○ ずらしの工夫で、一人学習の時に同時間接指導を行ったり、交流の時に教師が直接指導を行えることで、必要な支援をすることができた。 ● 計画通りさせない難しさがある。	<b>視点2</b> ○ ICTを活用し、ノートを使った交流を日常的に(他教科でも)行うことができ、交流することが当たり前になった。 ○ 相手意識をもって話したり書く姿が見られた。 ● 交流して高めたり、深めたりするための方法(交流の仕方)を指導する必要がある。
--	--

### Ⅲ. 実践例（近隣校や教育機関と連携した共同研究の推進）

人的資源が不足している複式校において、校内研修は、“独りよがり”や“昨年度踏襲”に陥ることが多く、教師力の向上に結びつかない事例が多い。ここでは、町複式教育部会と北海道教育大学釧路校と連携し、校内研修の「日常化」や「授業改善」に取組み、教師力向上を目指したことを紹介する。

#### 1. 釧路町立教育研究所複式教育部会の活動

本町では、本校と知方学小学校の両校で、町の研究所複式教育部会を組織し、旅費等も町研費用から支出され、研究主題「郷土の未来を拓き、たくましい実践力をもって主体的・創造的に生きる心豊かな子供の育成」を設定し、両校の進学先である昆布森中学校も含め3校で、共同研究を進めている。主な取組として、以下の4内容である。

##### (1) 活動内容

**①授業交流会の開催** 総会を含め年4回開催し、両校で授業を公開し、研究協議を実施している。

	実施月日	研究内容
1	6月15日	昆布森小学校低学年複式授業公開（国語）
2	9月23日	釧路プレ大会昆布森小2学級授業公開（国語）
3	11月9日	知方学小学校高学年複式授業公開（算数）



昆小低学年授業公開

##### ②集合学習の実施

体育の球技を中心に年3回程実施している。

実施月	5月13日（両校）	9月27日（両校）	1月19日（知方学小）
学習内容	体育（バスケット等）	体育（ソフトバレー等）	体育（長靴ホッケー）



集合学習高学年（知小体育館）



集合学習見送り（昆小校門前）

##### ③公開研究会開催にむけて

本校が第66回全道へき地複式教育研究大会釧路プレ大会の第1分科会授業会場校となり、沿岸3校が協力体制を組織し、開催・運営した。

④合同修学旅行の実施 十勝方面にむけて両校で計画立案し、高学年が隔年で実施している。

## 2. 北海道教育大学釧路校（以下釧路校）へき地複式教育開発指定校としての活動

本校は、釧路市中心部から20kmに位置し、釧路校とは14km程の距離で比較的交通の便に優れ、自然豊かな場所に立地している。本年度4月に、釧路校とへき地複式開発指定校の覚書を締結した。

### (1) 実践内容

#### ①複式校勤務に対応できる新しい教員養成カリキュラムの構築

・へき地複式実習

2学期（9月）に2週間 受け入れ学生数3名（条件によっては最大6名まで可能）

・フィールド実習，教育大学新入生研修，教員養成カリキュラムの実習校に位置づけられた。普段着で飾らない日常の授業の提供，学生には複式授業の困難さを体感させる。



教育実習（昆小中学年）



フィールド実習（昆小体育館）

#### ②日常的な釧路校からの授業観察，教職員への学術的なサポート，校内研修への助言・支援

#### ③釧路校と昆小との学生ボランティア（相互支援）システムの運用

- ・放課後（15:30～16:30），長期休業期間の学習サポート
- ・複式学級担任業務サポート（学習補助，学習支援）
- ・学校行事サポート（地域清掃，植樹活動，磯の観察学習，水泳教室，地域合同運動会，合同学習発表会，昆布森神社祭奉納相撲大会）
- ・小規模校公務サポート（校区周辺環境整備，グラウンド設計，土俵整備，リンク柵設置）
- ・研究大会準備運営サポート

※授業記録の作成と提供（学生），校内研修やプレ大会の打ち合わせ（教官）



カルガリー大留学生2名訪問



カルガリー大留学生相撲大会訪問

#### ④地域の活性化を目指した特色ある教育活動の展開

・環境教育のフィールド地としての活用

※豊かな自然（オオワシ、オジロワシの飛来地），裏山から続く林道の活用

#### IV. 釧路町複式教育部会での具体的な取組～205日継続できる複式授業を目指す～

「学びの自立を目指した複式授業」（高学年をモデルに，低・中学年段階で学びを積み上げる姿を描く）

##### 1. 学習規律の定着

これまでの両校の教育実践を踏まえ，両校の「スタンダード」導きだし，共通理解を図った。

##### 2. 一人学習の充実

児童に主体的に学ぶ力をつけ，間接指導時に自分たちの力で学習を進めていけるようにするため，学年に応じて目標を定め，手立てを考察し，共通理解を図った。

	学び方の定着の目標	手立て
高 学 年	教科書を使って自立的に授業を進める力 課題にこだわりを持ち，粘り強く，知的に 解決できる力	<b>学びの手引き</b> を活用したリーダー学習 <b>単元のねらい</b> に向かい，知的好奇心をくすぐ る課題づくり
中 学 年	単元全体のゴールを意識し，単元全体にお ける本時の授業の位置づけを理解し，学び 進める力	<b>単元のゴールと学習過程</b> を明確にした学習づ くり
低 学 年	1単位時間の学習過程に慣れ，本時の学び を見通せる力	毎時間， <b>同じような学習過程</b> の授業を展開す ること

##### 3. 交流の充実

一人学習で学んだ内容を自分の考えを深め，修正しながら本時の目標を達成するために，必ず  
交流の場を設定した。交流については学年に応じ目標を定め，取組を考察し，共通理解を図った。

	学び合うための目標	主 な 取 組
高 学 年	交流を通して考えを広げたり， 深められること	<b>交流の仕方</b> の模索，検討，実践の蓄積すること
中 学 年	交流時において，発信するだけ でなく受信し，再発信すること	同じ，違う，似ているなど， <b>立場を明確にした上で意見</b> すること
低 学 年	進んで楽しく学習し，友達と関 わること	毎時間1回以上の <b>交流場面</b> を取り入れること

##### 4. 関連した取組

###### 【机の配置】

複式授業における児童の集中力の確保や教師のわたりやすさ，児童が練り合う際の移動，  
板書計画と黒板の活用，ICT機器の活用等様々な観点から，机の配置の工夫を行った。中・  
高学年は「L字型」に固定している。

###### 【ICT機器の活用】←煩雑な「ホワイトボード」の活用から

児童のノートを現物投影機でTVに投影し交流することで、時間軽減と学びの足跡が明確。

## V. 教育大学との具体的な取組（教育大学釧路校の助言に基づいた学習指導案の具体化）

6月の1・2学年国語科の校内授業研で、内山准教授に下記の3点助言をいただいた。

- 1, 指導案の様式について、児童の活動を中心とすることや、A4版に統一すること。
- 2, 昆小で取り組んでいることを可視化すること。
- 3, 「何を見てもらいたいのか」という視点をはっきりさせること。

視点1 学び方を身につけるために

視点2 生き生きと活動するために

第1学年（本時 4／7）		直接指導 （時間）	第2学年（本時 3／15）	
主な働きかけ	学習活動		学習活動	主な働きかけ
P書き方のポイント	①<ひらがなドリル>		①<音読>	
D早く終わった子に言葉を探させ付箋に書かせる。	②<ひらがなドリル>		②<課題把握>	D本時の学習課題と学習の進め方。
D本時の学習課題と学習の進め方。 Q読み方による違い。	③<課題把握>  ④音読  ⑤色々な読み方		③<一人学習>	D「ここが大事」を参考に確かめさせる。
	⑥<一人学習>  【リーダー学習】		④<交流>	D交流を促し、まとめにつなげていく。
	「交流」には教師がつく その際の指導法とは何か		⑤<まとめ>	Q P本時の学習課題を振り返り、話の展開を意識させる。
D交流を促し、まとめにつなげる。 D交流に合った読み方。	⑦<一人学習> ⑧<交流>		⑥きつねが出てくるお話の設定を考える。	
	⑨<まとめ>		⑦<ドリル> 【リーダー学習】	

Q : クエスチョン (質問)    P : プレゼンテーション (説明)    D : ディレクション (指示)    → : (支援)

2. 上記の助言を生かした学習指導案 公開研の授業案 第5・6学年 国語科

第5学年 (本時 6 / 10)	直接指導	第6学年 (本時 3 / 11)
------------------	------	------------------

5学年 教材名「世界遺産 白神山地からの提言」

6学年 教材名「きつねの窓」

主な働きかけ	学習活動（下位目標）	（時間）		学習活動（下位目標）	主な働きかけ
	①<漢字スキル>	8分	4分	①<音読>	
			5分	②<課題把握>	P：前時の想起と本時の学習の進め方、目的意識。
	②<音読>	4分		【課題】ファンタジー場面の描写の特ちょうをとらえよう。	
			12分	③<一人学習>	D：考える視点として、不思議な世界の入り口と出口はどこか考えさせる。
P：前時の想起と本時の学習の進め方、目的意識。	③<課題把握>			予想される「入り口」 ・道を曲がった時… ・ききょう畑の登場… ・きつねの登場… 「いらっしやいま…	悩む子には、出口を先に考えさせることで、ファンタジー場面の特徴をとらえさせる。
【課題】根拠となる情報を見つけて、自然保護の立場を決めよう。					→：
D：教科書の例（p24～25）を参考に書かせる。					
	④<一人学習>	15分	11分	④<交流>	ファンタジー場面と現実場面の描写の違いに着目させることで収束できるようにし、課題にフィードバックさせていく。
前時の「資料が伝えること」の内容を想起させる。	・人を入れて守る ・人を入れないで守る			意見を理由づけて説明することができる。 (発表)	
→：					
	⑤<交流>	8分	2分	⑤<まとめ>	
必要に応じ意図的に交流に加わり、考えを広げたり深めたりする。	自分の立場を決めて根拠立てて説明することができる。(発表)		8分	交流で広がった考えや深まった考えを追加する。(プラス1)	
	⑥<まとめ>	2分		⑥<漢字スキル>	
	交流で広がった考えや深まった考えを追加する。(プラス1)				
	・まとめ読み (時間調整)	3分	3分	・まとめ読み (時間調整)	

Q：クエスチョン（質問） P：プレゼンテーション（説明） D：ディレクション（指示） →：（支援）

## VI. 成果や課題について

### 1. 校内研修に関わって

#### (1) 近隣校との連携から

- ① 指導案の様式を一部共有（本時に研究主題，仮説，視点を明記し，研究とのかかわりを記載）することによって，両校で研究課題解決に向けて共同で歩むことができた。
- ② 今年度は，授業者の先生が研究大会の1ヶ月前に同学年の（日常の）授業を参観し，事後研では，授業づくりについて話すことができた。今後も，このような風通しの良い研究・交流ができることを期待する。
- ③ 授業参観や集合学習の授業を通じて，各学年の実態や，担任の先生の工夫や苦労が見られた。
- ④ それぞれの学校の研究が具現化された授業をすることで，今後の研修活動の参考になった。特に高学年の姿を一つのモデルとして，その姿を目指して中学年，低学年で何を育てていくかを考えることができた。
- ⑤ 9年間を見通した指導の重要性（学習規律，基礎基本の定着，学び方の接続）を学ぶことができた。
- ⑥ 小中連携の取組で乗り入れ授業の実施（中学校の先生が小学校に来て音楽の授業を実施）することができた。教師間の交流の他，教科の専門性について学ぶことができた。
- ⑦ 3校で連携し，取組をすることによって本地区で抱えている教育課題が明確になった。

## （2）北海道教育大学釧路校との連携

- ① 指導案の様式についての提案（児童の活動を中心とする。A4版に統一）を受けて，「何をみてもらいたいのか」という視点が明確になり，研究の焦点を図ることができた。
- ② 授業構造や授業分析の視点でアドバイスを受け，客観的に研究を進めることができた。
- ③ 人的資源が乏しい複式校にとって，様々な人との出会いや交流することによって，新たな視点を得る機会に恵まれ，改めて教育活動を広げることができた。特に大学の教官との交流では，アクティブラーニングの実践に向けて，複式教育の利点を生かした実践が注目されていること等を知ることができて，教員の意欲化につながった。

## 2. 教育活動全般に関わって

### （1）主な成果

- ① 近隣校と連携することによって，本地区に関わる多くの情報を共有する機会を得ることができ，様々な面で適切な課題を解消する取組に結びついた。
- ② 複式校の児童が，大学生との交流や人数的な条件により普段できない運動に積極的に取り組む機会を設けることで，自他のよさを自覚したり，社会性の伸長を図ることができた。
- ③ 大学との交流を通じて，若い世代の学生や留学生が本地域の人々と交流することによって，地域の活性化につながった。